

『三國名勝図会』

太平山安國寺

邑主館より巳方、十一町餘、段土村本城址の南麓にあり、京都妙心寺の末にして、臨濟宗なり、本尊釋迦如來、木座像、長一尺七寸五分、當邑四方・中央佛の内、

北方佛なり、開山嵩山大本禪師、

一説、又開山は通叟と稱して、京都近衛家の御子なりと云傳へあり、其通叟は、即此大本

禪師の事なるや詳ならず、曆應二年、

大將軍足利尊氏の開基にて、一國一寺創建の内、大隅國の一ヶ寺なり、古文書ありしに、往時火災の時、悉く焼亡せりとぞ、寺内に尊氏の靈牌、前代より安置せり、古老の口碑に曰、舊當寺は、今の地より二町許坤の方にありしとなり、前代大門の跡なりとて、今當寺門外の遙か南の方、三町許にあり、又下馬牌の跡とて、彼大門跡より西の方にあり、昔日の宏麗想像すべし今昔は大利にて、田祿多く附し、門前寺戸多かりしといふ、○梵鐘一口高さ二尺九寸四分、徑一尺六寸三分、當寺にあり、銘木に永和五年と誌す、

○文之和尚墓 當寺の境内にあり、文之和尚、本府大龍寺に於て病を得、國分正興寺に歸りけるに、途中にて遷化あり、故に當寺に葬るといふ、和尚當寺に嘗て住職せしことありしとぞ、文

之和尚の傳は、本府大龍寺に詳なり、